

西暦	月	日	日誌
2025	10	10	鳥屋野潟公園で、鳥屋野潟沖合にカンムリカイツブリ、水路でコサギ、花壇でクマバチ、キアゲハ、アカタテハとの一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ、長袖シャツ、シューズで出かける。気温は19～22℃、南南東2m/s、陽射しは弱い、湿度は58%、日傘はささず。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、コサギ若鳥が水の中を歩く(後姿)、コサギ若鳥が水の中の獲物を狙う(横姿)、クマバチ♀、キアゲハ♂吸蜜、アカタテハ♂吸蜜、を撮影した。コサギ若鳥は、「フィールド図鑑日本の野鳥」では、『幼鳥は飾り羽がなく、脚には白っぽさがある。』と書いてあることから、第1回冬羽から成鳥になるまでの若鳥と考えた。クマバチは、「ハチハンドブック増補改訂版」に『メスは頭頂の毛が鮮黄色』と書いてあるので♀と推定した。「日本のチョウ増補版」でキアゲハ(尾部の形状)、アカタテハ(赤色部は外縁のみ)は掲載された写真で、♂と推定した。
2025	10	11	2016年版の鳥類を更新修正(マガモまで)。
2025	10	13	鳥屋野潟公園で、鳥屋野潟沖合にカンムリカイツブリ、マガモ、自然生態園ため池でコガモとの一期一会を楽しむ。曇天、Tシャツ、長袖シャツ、シューズで出かける。気温は22～22℃、北北東5m/s、陽射しは弱い、湿度は70%、日傘はささず。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ幼鳥第1回冬羽(浮上横姿)、マガモ♂エクリプス横姿、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、コガモ♂エクリプス横姿、を撮影した。カンムリカイツブリ幼鳥は、「フィールド図鑑日本の野鳥」では、『幼鳥は孵化して羽毛が生えそろってから、第1回冬羽に換羽するまでの鳥。』と書いてあることから、第1回冬羽直前の幼鳥と推定した。コガモ♂は、同文献に『エクリプスの脇羽は丸みがあり、雌や幼鳥ではとがり気味』と書いてあることから、♂エクリプスと推定した。マガモ♂は、「新、日本の野鳥」に『雌に以ているが、嘴は黄色で変化しない。頭と過眼線の黒褐色が雌よりも濃いことなどでも識別できる。幼鳥は嘴に褐色味がある。』と書いてあることから♂エクリプスと推定した。
2025	10	14	鳥屋野潟弁天橋でチュウダイサギ、鳥屋野潟公園の沖合でカンムリカイツブリ、同じく水路でマガモ、新潟県スポーツ公園ため池でコガモとの一期一会を楽しむ。曇天、Tシャツ、長袖シャツ、シューズで出かける。気温は19～20℃、南東3m/s、陽射しは弱い、湿度は67%、日傘はささず。鳥屋野潟、チュウダイサギ(冬羽に移行中)が岸辺で餌を探す(横姿)、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、マガモ♀横姿、嘴を羽に隠して眠るコガモ♂エクリプス、嘴を羽に隠して休むコガモ♀、を撮影した。鳥屋野潟公園水路のカルガモの群れの近くに、1羽だけマガモ♀がいた。迷子か？ 渡来したマガモはまだ少ない。新潟県スポーツ公園ため池のコガモ♂エクリプスは、腹部が生殖羽の羽模様に換羽中である。♀と比べると、『エクリプスの脇羽は丸みがあり、雌や幼鳥ではとがり気味』なのが良く分かる。
2025	10	15	鳥屋野潟公園の沖合でコハクチョウ、新潟県スポーツ公園ため池でコガモとの一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ、長袖シャツ、シューズで出かける。気温は21～22℃、東北東3m/s、陽射しは弱い、湿度は64%、時々日傘はさす。コハクチョウ群れ(約150羽)、コハクチョウ幼鳥、コハクチョウ幼鳥と成鳥、コガモ♀羽繕い、を撮影した。コハクチョウのファミリー5羽が飛び立ち、旋回して、長潟の田んぼの方角へ向かった。落ち穂を食べに行っただのかな？ 爽やかな秋晴れである。
2025	10	17	2016年版の鳥類を更新修正(マミチャジナイまで)。ミコアイサ更新中。

西暦	月	日	日誌
2025	10	18	鳥屋野潟弁天橋でカンムリカイツブリ、鳥屋野潟公園の岸辺でチュウダイサギ、自然生態園ため池でチュウダイサギ、清五郎排水路の鳥屋野潟合流付近でマガモとの一期一会を楽しむ。更に新堀排水路、産業振興センターまで足を運ぶ。曇天、Tシャツ、長袖シャツ、シューズで出かける。気温は19～22℃、南南東4m/s、陽射しは弱い、湿度は64%、日傘はささず。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、カンムリカイツブリ幼鳥第1回冬羽(横姿)、チュウダイサギ冬羽が水の中を歩く(横姿)、セイタカアワダチソウ群生、マガモ♂エクリプス横姿、新堀排水路景観、チュウダイサギ(冬羽に移行中)の横顔、チュウダイサギ(冬羽に移行中)が深水を歩く(横姿)、を撮影した。清五郎排水路に1羽だけマガモ♂エクリプスがいた。仲間は何処にいるのかな？ ヨシ原のバツがいなくなったせいか、夏鳥のチュウサギの姿が見えなくなった。南帰行したのかな？ 自然生態園ため池のチュウダイサギは水面下に脚があるため、脛(すね)から跗蹠(ふしよ)が黒色か肉色か分らなかった。肉色ならば冬鳥のダイサギである。
2025	10	20	鳥屋野潟弁天橋でコガモ7羽のファミリー、鳥屋野潟公園の沖合でカンムリカイツブリ、マガモ、棧橋でカワウ、新潟県スポーツ公園花壇でイチモンジセセリ、との一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ、長袖シャツ、シューズで出かける。気温は18～16℃、南南東2m/s、陽射しは弱い、湿度は63%、日傘はささず。鳥屋野潟、コガモ♂エクリプスと♀、締切矢板、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、2羽のマガモ♂エクリプス、カワウ前姿、イチモンジセセリ吸蜜、を撮影した。カワウは、文献「フィールド図鑑日本の野鳥」、文献「新 日本の野鳥」には、雌雄同色であるため、成長と幼鳥の見出しで姿図や写真が提示されている。筆者は、婚姻色の繁殖羽(頭部と腿に白い羽が出る)は雄だけだと思っていたが、雌も繁殖羽になるらしい。今までは、ネット検索で、クチバシの根本に黄色い部分が多いのが雌、黄色い部分が少なく、下クチバシが黒っぽいのが雄……という見分け方が書いてあったので、♂と♀を区別していたが、どうもあやしいようだ。今後、新しい情報を入手するまでは、雌雄の区別をしないことにする。
2025	10	23	鳥屋野潟弁天橋で爽やかな秋晴れの鳥屋野潟景観を、湖桜第2公園で紅葉し始めたハゼノキを、鳥屋野潟公園の岸辺でチュウダイサギ、アオサギを、自然生態園ため池でコガモ、との一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ、長袖シャツ、ジャンパー、シューズで出かける。気温は14～16℃、東北東3m/s、陽射しは暖かい、湿度は53%、日傘をさす。鳥屋野潟、ハゼノキ紅葉、締切矢板、チュウダイサギ冬羽の跗蹠(ふしよ)、アオサギが締切矢板の上で片足立ち、コガモ♂エクリプスと♀、を撮影した。アオサギは、文献「フィールド図鑑日本の野鳥」によると、雌雄同色で冬羽と夏羽の区別がなく、成長と若鳥と幼鳥、婚姻色の見出しで姿図が提示されている。チュウダイサギ冬羽の跗蹠(ふしよ)は、画像に右脚の部位の名称を概略図示した。鳥の指は4本で、第1趾(後指)、第2趾(内指)、第3趾(中指)、第4趾(外指)と呼ぶそうである。
2025	10	24	爽やかな秋晴れの信濃川やすらぎ提で、チュウダイサギ、アメリカヒドリとヒドリガモ、コサギとの一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ、長袖シャツ、ジャンパー、シューズで出かける。気温は14～18℃、南3m/s、陽射しは暖かい、湿度は58%、日傘をさす。チュウダイサギ冬羽が深水を歩く(横姿)、アメリカヒドリ♂横姿、コサギ冬羽に移行中が舌を出す(横姿)と同じく横顔、を撮影した。アメリカヒドリ♂は、16羽のヒドリガモの群れの中にいた。ヒドリガモとの雑種かもしれない。コサギが嘴を大きく開いて舌を出していた。涼しいのに体温調節か？…不明である。
2025	10	25	爽やかな秋晴れの信濃川やすらぎ提で、コサギ、ヒドリガモとの一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ、長袖シャツ、ジャンパー、シューズで出かける。気温は15～18℃、東2m/s、陽射しは暖かい、湿度は66%、日傘をさす。コサギ冬羽が水の中を歩く(横姿)、ヒドリガモ♀が羽繕い(アメリカヒドリとの交雑個体か？)、ヒドリガモ♀が羽繕い、を撮影した。“ヒドリガモ♀が羽繕い(アメリカヒドリとの交雑個体か？)”は、眼の周りの模様が緑色っぽい。なんとなく、アメリカヒドリ♂の眼の周りの模様を連想させる。もう一羽の“ヒドリガモ♀が羽繕い”の画像と比べると目の周りの模様の違いが良く分かる。

西暦	月	日	日誌
2025	10	27	小雨模様の曇空、信濃川やすらぎ堤で、ヒドリガモとウミネコとの一期一会を楽しむ。曇天、Tシャツ、長袖シャツ、ジャンパー、シューズで出かける。気温は19～19℃、西6m/s、陽射しは弱い、湿度は63%、雨傘をさす。ヒドリガモ♀と♂、2羽のヒドリガモ♂エクリプス、ヒドリガモとアメリカヒドリとの交雑個体♂エクリプスか？、ウミネコ冬羽（横姿）、を撮影した。ヒドリガモの群れは約20羽、“ヒドリガモとアメリカヒドリとの交雑個体♂エクリプスか？”は、眼の周りと後方の模様が緑色っぽい。なんとなく、アメリカヒドリ♂の眼の周りの模様を連想させる。“2羽のヒドリガモ♂エクリプス”の画像と比べると目の周りの模様の違いが良く分かる。

